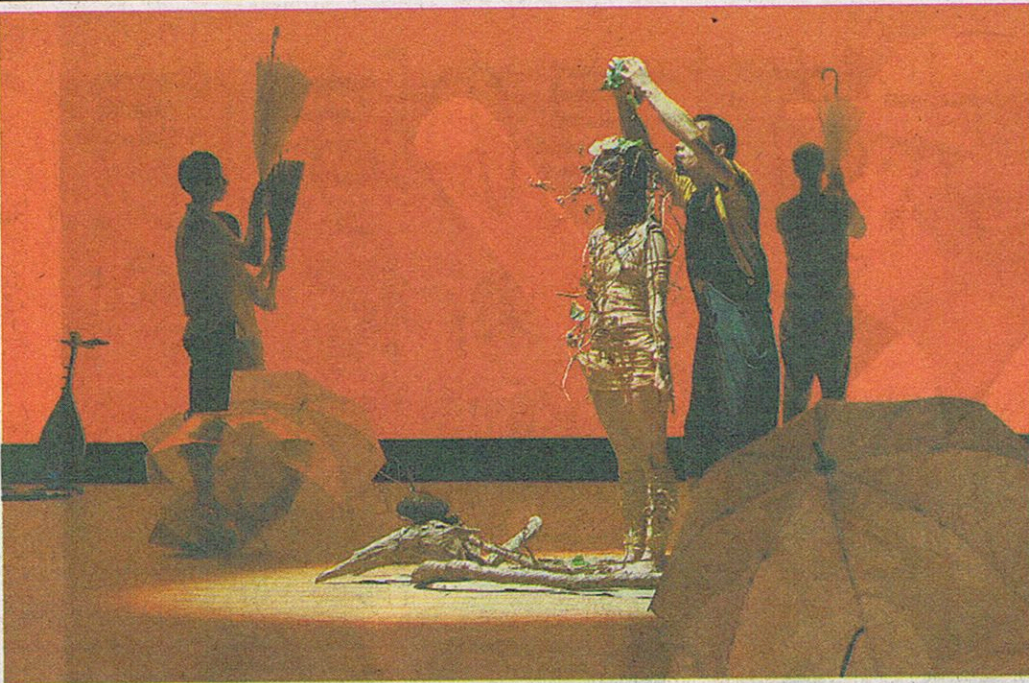


# 「黒い雨」舞台で訴え

## 中区 苦しみ踊りや音楽で

原爆で「黒い雨」の被害を受けた人の人生を踊りや音楽で表現する舞台が19日、広島市



黒い雨の被害を受けた人たちを表現したパフォーマンス

中区のJMSアステールプラザであった。国内外のパフォーマー9人の表現力に、約120人が見入った。

(3面関連)

9人は、被害者の証言を直接聞き取るなどして舞台の構成を検討。雨を浴びた時やその後の苦しみ、そこから立ち上がる姿を、傘を使った踊りや顔に布を巻いての動き、女性の体に花を生ける表現方法などで訴えた。

19日まで中区であった日本平和学会春季研究大会の一環。黒い雨

被害に対する国の援護拡大を求める集団訴訟の動きがある中、広島市立大の湯浅正恵教授が企画した。

広島市西区の高校教員向井均さん(72)は「黒い雨を浴び、70年たった今も苦しんでいる人たちの姿が想像でき、心を揺さぶられた」と話していた。

(堀晋也)